

外科専門研修プログラム

2022年度

東京女子医科大学東医療センター

1. 東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラムについて

東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りをもち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科）またはそれに準じた救急医療(Acute Care Surgery)などの外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

2. 研修プログラムの施設群

東京女子医科大学東医療センターと連携施設（11施設）により専門研修施設群を構成します。

本専門研修施設群では 以下の38名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設（資料1. 東京女子医科大学東医療センター施設紹介 参照）

No.	氏名	所属	都道府県	役職	指導担当分野	役割
1	塩澤俊一	外科	東京都	教授・診療部長	1	1
2	前 昌宏	呼吸器外科	東京都	臨床教授・診療部長	3	2
3	上部一彦	心臓血管外科	東京都	准教授・診療部長	2	
4	平野 明	乳腺外科	東京都	准教授・診療部長	5	
5	庄古知久	救急医療科	東京都	教授・診療部長	6	
6	大東誠司	外科	東京都	特任教授	1	
7	勝部隆男	外科	東京都	臨床教授	1	
8	島川 武	外科	東京都	准教授	1	
9	古川博史	心臓血管外科	東京都	准教授	2	
10	横溝 肇	外科	東京都	講師	1	
11	碓井健文	外科	東京都	講師	1	3
12	松本卓子	呼吸器外科	東京都	講師	3	
13	浅香晋一	外科	東京都	准講師	1	
14	清水俊榮	呼吸器外科	東京都	准講師	3	
15	久原浩太郎	外科	東京都	助教	1	
16	岡山幸代	外科	東京都	助教	1	
17	中安靖代	外科	東京都	助教	1	
18	西口遼平	外科	東京都	助教	1	
19	川島章子	小児外科	東京都	助教	4	

指導担当分野：1. 消化器外科 2. 心臓血管外科 3. 呼吸器外科 4. 小児外科 5. 乳腺内分泌外科 6. 救急外科

役割：1. 統括責任者 2. 副統括責任者 3. 連携施設担当者

専門研修連携施設（資料2. 連携施設紹介 参照）

No.	氏名	所属	都道府県	役職	指導担当分野	役割
1	村山 実	いずみ記念病院	東京都	外科診療部長	1	
2	中島 修	いずみ記念病院	東京都	外科部長	1	
3	山崎勝雄	いずみ記念病院	東京都	病院長	6	3
4	金 達浩	彩の国東大宮メディカルセンター	埼玉県	副院長・外科部長	1, 6	3
5	金 直美	彩の国東大宮メディカルセンター	埼玉県	外科医長	5	
6	河野鉄平	埼玉県済生会栗橋病院	埼玉県	外科主任医長	1	3
7	渡辺 修	三和病院	千葉県	病院長	1, 5	3
8	曾澤雅樹	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県	消化器外科部長	1	3
9	今野宗一	西新井病院	東京都	外科部長	1	3
10	白田敦子	西新井病院	東京都	外科医員	1	
11	服部晃典	川口誠和病院	埼玉県	副院長・外科部長	1, 5	
12	佐竹昌也	川口誠和病院	埼玉県	外科部長	1	3
13	宮澤美季	川口誠和病院	埼玉県	外科医員	1	
14	松本敦夫	滝不動病院	千葉県	外科部長	1	
15	齋藤由理	中通総合病院	秋田県	消化器外科科長	1	3
16	高橋研太郎	中通総合病院	秋田県	消化器外科科長	1	3
17	野地 智	東大和病院	東京都	病院長	2	
17	館林孝幸	東大和病院	東京都	副院長	2	3
18	川島 隆	東大和病院	東京都	医長	2	
19	山口健太郎	流山中央病院	千葉県	外科部長	1	3
20	鬼澤俊輔	東京女子医大八千代医療センター	千葉県	講師	1	3
21	坪井正博	国立がん研究センター東病院	千葉県	科長	3	3

3. 専攻医の受け入れ数について

本プログラムにおける研修可能なNCD登録数(3年間)は 9,114 例で、専門研修指導医は 41名のため、本年度の募集専攻医数は 6名です。

4. 外科専門研修について

- 1) 外科専門医は初期臨床研修修了後3年(以上)の専門研修で育成されます。
 - 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。
 - 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度(コアコンピテンシー)と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
 - サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャリティ領域専門研修の開始と認める場合があります。サブスペシャリティ領域連動型については現時点では未定です。

- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。（専攻医研修マニュアル-経験目標2-参照）
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。

2) 年次毎の専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

下図に外科研修プログラム(例)を示します。専門研修1年目は基幹施設で外科の基本手技と共に必修領域の呼吸器外科・心臓血管外科・乳腺外科・小児外科・救急外科などをローテーションします。専門研修2,3年目は基幹もしくは連携施設で研修を積みますが、必修領域の研修も十分に修了したと判定された場合は、サブスペシャリティを考慮した研修プログラムへの変更も考慮します。また、日本専門医機構の調整で地域医療の研修を目的に、ローテーションする3施設が異なる医療圏に存在する場合があります。

1年次	2年次	3年次	4年次以降
基幹施設	連携施設A	連携施設B	基幹施設
外科専門研修			サブスペシャルティ
消化器外科	外科一般	外科一般	
心臓血管外科			
呼吸器外科			
乳腺外科			
小児外科			
救急医療科 (ACS)			
		サブスペシャルティ領域を中心とした専門研修	
			外科専門医試験受験

東京女子医科大学東医療センター外科研修プログラムでの3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮します。

当外科研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります（未修了）。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始します。

・専門研修 1年目

基幹施設の東京女子医科大学東医療センターで研修を行います。

消化器・一般外科/心臓・血管外科/呼吸器外科/乳腺外科/小児外科をローテーションし、救急医療科の指導のもとで救急疾患(Acute Care Surgery)も随時経験します。

経験症例 120例以上（術者 50例以上）

・専門研修 2, 3年目

基幹もしくは連携施設群のうちのいずれかの施設に所属し研修を行います。

消化器・一般外科を中心に救急/心・血管/呼吸器/小児/乳腺疾患を広く経験します。

経験症例 350例以上/2年（術者 120例以上/2年）

・サブスペシャルティ領域などの専門医取得をめざした研修を行います。

3年次からはサブスペシャリティ領域（消化器外科，心臓・血管外科，呼吸器外科，乳腺外科、内分泌外科、小児外科）または外科関連領域（外傷外科、AcuteCare Surgeryなど）の専門研修を開始します。

- ・東医療センター救急医療科は外科系関連診療科として、当外科専門医プログラムに参画しています。2021年度からはAcute Care Surgeon 育成のために「**緊急外科コース**」を開設しました。一般外科、外傷外科のみならず外科系各専門分野の知識と手術経験が必要となるため、1年目は東医療センター外科系各診療科、2年目以降は八千代医療センターなどの専門研修連携施設にもご協力いただき修練することになります。本コース終了後はAcute Care Surgery(ACS)学会の認定外科医取得を目指します。ACSは救急外科・外傷外科・集中治療の3領域を担当する新しい専門領域です。ACS学会は外科専門医の2階部分となるサブスペシャリティ領域専門医制度の認定を目指しています。また、希望者には外科専門医取得後に救命救急センターに勤務し、**救急科専門医を取得(ダブルボード)**することも可能です。
- ・大学院への進学を希望する者は、臨床研究または学術研究・基礎研究を開始します。ただし、研究専任となる基礎研究は6か月以内とします。

3) 研修の週間計画および年間計画

○**基幹施設の週間計画**（資料1を参照）

○**連携施設の週間計画**（資料2を参照）

○**研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール**

月	全体行事予定
4	・外科専門研修開始. 専攻医および指導医に提出用の資料配布 ・日本外科学会参加 (学会発表)
5	・研修修了者: 専門医認定審査申請・提出
8	・研修修了者: 専門医認定審査 (筆記試験)
11	・日本臨床外科学会参加 (学会発表)
2	・専攻医: 研修目標達成度評価報告用紙と経験症例報告用紙の作成 (年次報告; 書類は翌月に提出)
	・専攻医: 研修プログラム評価報告用紙の作成 (書類は翌月に提出)
	・指導医, 指導責任者; 指導実績報告用紙の作成 (書類は翌月に提出)
3	・その年度の研修終了
	・専攻医: その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出
	・指導医, 指導責任者; 前年度の指導実績報告用紙の提出
	・研修プログラム管理委員会開催

5. 専攻医の到達目標 (習得すべき知識・技能・態度など)

- 専攻医研修マニュアルの到達目標1 (専門知識)、到達目標2 (専門技能)、到達目標3 (学問的姿勢)、到達目標4 (倫理性、社会性など) を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 (専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照)

- 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- 放射線診断・病理合同カンファレンス: 手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比いたします。
- キャンサーボード: 複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- 基幹施設と連携施設による症例検討会: 各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を毎年1月に大学内の施設を用いて行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。

- 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- 大動物を用いたトレーニング設備や教育DVDなどを用いて積極的に手術手技を学びます。
- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。
 - ・ ・ 標準的医療および今後期待される先進的医療
 - ・ ・ 医療倫理、医療安全、院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- 日本外科学会定期学術集会に1回以上参加する。
- 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表する。

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナルリズム）
 - 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。
- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

- 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとの的確な医療を目指します。
 - 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
- 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
- チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
 - 的確なコンサルテーションを実践します。
 - 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと
- 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。
- 6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること
- 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
 - 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
 - 診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは東京女子医科大学東医療センターを基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となりcommon diseasesの経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。東京女子医科大学東医療センター外科研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希

望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標3-参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- ▶ 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- ▶ 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- ▶ 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

11. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である東京女子医科大学東医療センターには、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。東京女子医科大学東医療センター専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科の6つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科、救急医療科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研

修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

12. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘル스에配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

13. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録に基づいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

14. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアルVIIIを参照してください。

15. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

日本外科学会のホームページにある書式(専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録)を用いて、専攻医は研修実績(NCD登録)を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

東京女子医科大学東医療センター外科にて、専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

●専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

●指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

●専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

●指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

16. 専攻医の採用と修了

○採用方法

東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、9月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。なお、申請書は

- (1) 東京女子医科大学東医療センターのwebsite (<http://twmu-mce.jp>) よりダウンロード(令和3年10月中に掲載予定です)
 - (2) 電話による問い合わせ(03-3810-1111(代表), 外科秘書 星野まで)
 - (3) e-mailによる問い合わせ 外科秘書 星野まで (gekahisho.ao@twmu.ac.jp)
- のいずれの方法でも入手可能です。なお、専攻医の日本専門医機構への登録と当プログラムへの応募期間は以下の日程を予定しています。

(一次登録)

- ・令和3年10月1日～11月15日 専攻医による登録期間
- ・令和3年11月16日～11月30日 採用確認・調整期間
- ・令和3年12月1日～12月15日 当プログラムの採用期間

(二次登録)

- ・令和3年12月16日～令和4年1月31日 専攻医による登録期間
- ・令和4年2月1日～令和4年2月14日 採用確認・調整期間
- ・令和4年2月15日～令和4年2月28日 当プログラムの採用期間

上記日程に準じて書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

○研修開始届け

研修を開始した専攻医は各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局および外科研修委員会に提出します。

- ・ 専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・ 専攻医の履歴書（様式15-3号）
- ・ 専攻医の初期研修修了証

○修了要件

専攻医研修マニュアルを参照してください。

基幹施設：東京女子医科大学東医療センター

〒116-8567 東京都荒川区西尾久 2-1-10

TEL 03(3810)1111, FAX 03(3894)0282

URL <http://twmu-mce.jp>

【1】 外科・小児外科

1. 地域における役割と施設の特徴

当科は地域に密着した医療と大学病院としての使命である高度医療を実践しています。各診療領域の専門医のもと、手術手技の修得にとどまらず各種内視鏡等の検査手技から術前診断さらに化学療法まで、術前・術後を通した一連の診断・治療が行える臨床医の育成を目指したカリキュラムを組んでいます。また、医局員の約1/4が女性外科医ということもあり、女性のライフイベントは勿論のこと、外科医のダイバーシティにも柔軟に対応した働きやすい環境作りをしています。

消化器外科領域では現在12名の教育スタッフがおり、さらに「上部消化管」、「下部消化管」、「肝胆膵」の各領域の臨床グループに分かれて診療および研究活動を行っています。当科の研修ではすべてのチームをローテートし幅広く消化器および乳腺外科を学び、外科に入局後の5～6年目に自分の専門領域を決め、さらなるサブスペシャリティへ進むというシステムとなっています。また、院内では外来化学療法、緩和医療、栄養サポートといった部門でも外科医師が各チームの中心的役割を担っています。

2. 指導医・外科スタッフ (12名)

塩澤俊一 教授・診療部長	大東誠司 特任教授	勝部隆男 准教授
島川 武 准教授	横溝 肇 講師	碓井健文 講師
浅香晋一 講師	久原浩太郎 助教	岡山幸代 助教
中安靖代 助教	西口遼平 助教	藤田佐希 助教

- ・日本外科学会 専門医 28名, 同 指導医 13名
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医 19名, 同 指導医 11名

3. 症例別経験可能数 (術者または助手として最大限, 経験可能な手術数, 専攻医数とローテーションの期間によって異なる場合もあります)

症 例	手術数	術者として	助手として
食道癌	25件	0件	25件
胃癌	100件	10件	90件
大腸癌	180件	20件	160件
肝胆膵癌	60件	5件	55件
胆嚢結石症	80件	70件	10件
ヘルニア	70件	50件	20件
救急疾患(急性虫垂炎/消化管穿孔/腹膜炎など)	40件	20件	20件
小児外科疾患	20件	10件	10件
その他 体表小手術など	25件	25件	0件
合 計	600件	200件	400件

4. 取り扱っている疾患の特徴

- 1) 消化器外科領域では良性疾患(胆石症、腸閉塞、ヘルニアなど)から悪性疾患、とくに専門性の高い消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌、肝胆膵癌)の手術まで幅広く行っており、全症例の約7割を鏡視下手術で行っています。また、下部消化管領域のうち直腸・S状結腸癌に対してはロボット支援(daVinci)手術を2019年より開始しました。緊急性の高い救急疾患(急性虫垂炎、消化管穿孔/出血、腹膜炎、ヘルニア嵌頓、絞扼性イレウスなど)の手術も随時、救急医療科(Acute Care Surgery 部門)と協力し対応しています。
- 2) 小児外科領域では鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、胃瘻造設術などの疾患を中心に、鏡視下手術にも力を入れています。
- 3) 手術療法以外の治療では、食道静脈瘤に対する硬化療法、早期食道癌・胃癌・大腸癌に対する内視鏡的粘膜切除/剥離術(EMR, ESD)、総胆管結石に対する内視鏡的切石術(EPBD/EST)、肝癌に対する経カテーテル的肝動脈化学塞栓術(TACE)も当科で行っており、手術以外の消化器疾患の治療法も経験できます。

5. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～	部長回診							
8:00～	診療グループ別回診①							
16:00～	診療グループ別回診②							
17:00～(第2月曜)	消化器病合同カンファレンス							
19:00～(第3月曜)	抄読会							
17:00～(第4月曜)	がんセンターボード							
17:00～	術前検討会							
9:00～	手術							
9:00～	消化器系検査/治療(内視鏡・血管造影検査)							
18:00～	重症例検討会・学会予演会など							

【専攻医へ向けてメッセージ】

- ・当院は区東北部医療圏(荒川区・足立区・葛飾区)の基幹病院の1つです。令和3年秋には足立区に新築移転し(東京女子医科大学附属足立医療センターに名称変更の予定)、さらに高度な機能を備えた新病院に生まれ変わる予定です。
- ・消化器・乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、救急外科、いずれの診療科でも多くの症例を経験でき、比較的早い段階から術者として手術を任されることも当院の教育システムの特徴の1つです。手術では多くの鏡視下手術はもとより、ロボット支援手術(消化器外科・呼吸器外科)や急性期救急医療なども幅広く経験することができます。
- ・各医局とも特定の大学の出身者が多いという傾向はなく、リベラルな雰囲気での研修に打ち込めると思います。

【2】 心臓血管外科

1. 地域における役割と施設の特徴

当センターは東京都城北地域において、3次救急・周産期治療など超急性期治療を行える中核病院です。急性期医療を中心とした高度な医療を行っています。心臓血管外科では虚血性心疾患・弁膜症を中心とした心臓疾患全般（先天性心疾患を除く）および胸部・腹部大動脈疾患・末梢動脈疾患を中心とした血管疾患一般の手術を行っています。急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などの緊急手術にも対応しています。

2. 指導医・外科スタッフ（4名）2021年4月現在

指導医2名、専門医2名(指導医2名含む)

助 教1名、後期研修医1名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数

心臓血管外科 年間延べ入院数（2017年までは呼吸器外科患者を含む）

2015年 10,802人/年、 2016年 10,204人/年、 2017年 8,471人/年

2019年 2,298人

② 許可病床数

8床

③ 2017-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2017年	195件	
2018年	102件	
2019年	85件	
平均	128件	約80件

④ 症例別経験可能数(2019年症例から)

症 例	手術数	術者として	助手として
先天性疾患	1件	0件	0件
弁膜症	15件	0件	14件
虚血性心疾患	17件	0件	12件
胸部大動脈瘤 (open)	11件	0件	10件
心臓腫瘍	2件	0件	1件
腹部大動脈瘤 (open)	5件	0件	5件

TEVAR	0 件	0 件	0 件
EVAR	15 件	11 件	0 件
末梢血管	19 件	3 件	6 件
合 計	85 件	14 件	48 件

⑤ 取り扱っている疾患の特徴

弁膜症、虚血性、大血管(ステントグラフト)手術

腹部大動脈、末梢血管へ手術 (ステントグラフト、PTA、コイリングなどの血管内治療を含む)

心大血管手術から末梢血管手術まで、偏りのない症例の経験と研修が可能です。

4. 週間スケジュール

月 8:30 回診 9:00 手術

火 8:30 回診、病棟業務

水 8:30 回診 9:00 手術

木 8:30 回診、病棟業務

金 8:30 回診 9:00 手術 16:00 症例検討会

土 8:30 回診

【3】 呼吸器外科

1. 地域における役割と施設の特徴

東京都の城北地区である足立区、荒川区には、地域の特異性として肺癌、胸膜中皮腫という悪性疾患が多く、進行してからの発見例も多くみられます。特に高齢者、在留外国人の方々も多いですが、当施設では積極的に患者さんを受け入れています。肺疾患、胸膜疾患、縦隔腫瘍に対して、ほぼ全例で胸腔鏡下手術を行っています。また、2021年よりロボット支援手術を導入しています。

この地域には呼吸器外科専門医および胸腔鏡設備の揃った病院は当施設以外になく、多くの患者さんを地域の病院・診療所よりご紹介いただいています。

2. 指導医・外科スタッフ（4名）

前 昌宏 診療部長・准教授
松本卓子 講師
清水俊榮 准講師、医局長
片桐さやか 助教

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数

肺癌、転移性肺腫瘍、胸膜疾患（胸膜炎、胸膜中皮腫、気胸）、縦隔腫瘍などが大半を占めています。また、3次救急の受け入れが多いため、胸部外傷の患者も診ることができます。

2019年の手術実績では、肺癌 83例、転移性肺腫瘍切除 30例、縦隔腫瘍 17例、急性膿胸 4例、気胸および巨大肺嚢胞 40例でした。

② 許可病床数

平均 14床を使用しています。

③ 2017-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2017年	166件	166件
2018年	155件	155件
2019年	188件	188件
平均	170件	170件

④ 症例別経験可能数（術者/助手として経験可能な手術数を記載。専攻医数とローテーションの期間によって異なる場合があります）

症例	手術数	術者として	助手として
肺癌手術	83件	10件	73件
転移性肺腫瘍	30件	10件	20件

急性膿胸	4件	2件	2件
気胸、気腫性疾患	40件	16件	24件
胸腔鏡下生検等	31件	18件	14件
合計	188件	56件	132件

⑤ 取り扱っている疾患の特徴

緊急例、待機例を問わず治療の適応があれば積極的に受け入れて治療を行っております。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:00	病棟	■	■	■	■	■	■	
13:30-16:00	気管支鏡検査	■			■			
9:00-17:00	手術	■				■		
8:00-9:00	カンファレンス	■				■		

5. 診療実績

2019年実績は以下の通りです。

呼吸器外科全身麻酔下手術 188件、うち胸腔鏡手術 177件

気管支鏡検査 92件、気管支ステント留置 1件、

【専攻医の方々へ】

当院の立地と、呼吸器外科専門施設が限られていることから、定時手術ばかりでなく、呼吸器疾患に関する緊急治療、処置が必要な症例を受け入れています。そのため、呼吸器外科を専門領域として選択することはもちろん、1-2か月の短期間の研修で、当科指導医のもと、多くの症例を経験できます。

【4】 乳腺外科

1. 地域における役割と施設の特徴

荒川区、足立区乳癌検診の一次・二次検診を請け負う中心的役割とともに、全診療科を有する総合病院として併存症をもつ症例も広く受け入れています。

2. 指導医・乳腺外科スタッフ（1名）

平野 明 診療部長・准教授

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数(2017年実績)

年間乳癌手術件数 178件

年間良性腫瘍手術件数 20件

② 許可病床数

5床

③ 2017-2019年のNCD登録数(乳腺外科領域)

	施設全体	経験可能数
2017年	198件	
2018年	156件	
2019年	194件	
平均	182件	約170例

④ 症例別経験可能数(術者もしくは助手として最大限、経験可能な手術数を記載。専攻医数とローテーションの期間によって異なる場合があります)

症 例	手術数	術者として	助手として
乳房切除術(乳癌)	60件	30件	30件
乳房部分切除術(乳癌)	90件	20件	70件
皮膚温存乳房切除術(乳癌)	10件	0件	10件
腫瘍核出術(乳腺良性腫瘍)	20件	20件	0件
合 計	180件	70件	110件

⑤ 取り扱っている疾患の特徴

乳癌を中心に乳腺良性腫瘍の治療も行っています。

乳癌に対しては術前・術後化学療法も当科で施行しています。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30	病棟回診							

8:30-9:00	病棟業務	■	■	■	■	■	■	■	■
9:00-12:00	外来診療	■	■	■	■	■	■	■	■
9:00-16:00	手術	■	■	■	■	■	■	■	■
16:30-17:00	病棟回診	■	■	■	■	■	■	■	■
17:00-18:00	症例カンファレンス	■	■	■	■	■	■	■	■

5. 診療実績 2019年実績

乳腺手術例 194件

外来化学療法 約650件

【5】 救急医療科

1. 地域における役割と施設の特徴

当科は地域3次救急医療を担う救命救急センターを運営しています。3次救急は通常の救急外来とは異なり、ショック状態のような vital sign が不安定な重篤な患者を受け入れます。外傷の出血性ショックの患者は当科が初期対応します。特に体幹部の重症臓器損傷の場合は、すぐに開胸開腹し止血を行わなければなりません。当科の外傷外科医 (Acute Care Surgeon) が執刀しています。また集中治療を要する急性腹症も当科で執刀しており、初療から緊急手術、ICU での術後の集中治療までシームレスな診療を行っています。

東医療センター救急医療科は外科系関連診療科として、当外科専門医プログラムに参画しています。2021年度からは Acute Care Surgeon 育成のために「**緊急外科コース**」を開設しています。一般外科、外傷外科のみならず外科系各専門分野の知識と手術経験が必要となるため、1年目は東医療センター外科系各診療科、2年日以降は八千代医療センターなどの専門研修連携施設にて修練することになります。外科専門医取得後は Acute Care Surgery (ACS) 学会の認定外科医取得を目指します。ACS は救急外科・外傷外科・集中治療の3領域を担当する新しい専門領域です。ACS 学会は外科専門医の2階部分となるサブスペシャリティ領域専門医制度の認定を目指しています。

外科専門医取得後は救命救急センターに勤務し、救急科専門医を取得すること（ダブルボード）も可能です。当院は東京都の区東北部（荒川区、足立区、葛飾区）人口134万人地域唯一の救命救急センター、都内有数の High volume center です。

2. 指導医・緊急外科スタッフ（6名）

- ・ 庄古 知久 診療部長・教授
- ・ 小島 光暁 准教授
- ・ 中本 礼良 助教
- ・ 谷澤 秀 助教
- ・ 持田 弦 後期研修医
- ・ 米川 知里 後期研修医

外科専門医 3名，同 指導医 1名

外傷専門医 1名， 熱傷専門医 1名

Acute Care Surgery 認定外科医 3名

救急科専門医 3名，同 指導医 1名

3. 患者数、病床数、NCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数(2020年実績)

3次救急受け入れ年間件数	1,889件
年間入院患者数 救急医療科	1,504人

② 許可病床数

救急医療科 32床(うち救命ICU 20床)

③2017-2020年のNCD登録数(救急医療科手術)

	施設全体	経験可能数
2017年	164件	
2018年	92件	
2019年	187件	
2020年	216件	
平均	164件	約100件

④症例別経験可能数(術者または助手として最大限、経験可能な年間手術数。専攻医数とローテーションの期間によって異なる場合もあります)

症例	手術数	術者として	助手として
緊急室開胸	20件	5件	5件
気管切開	27件	9件	9件
輪状甲状靱帯切開	7件	2件	2件
頸部食道縫合	1件	0件	1件
心嚢開創術	2件	1件	1件
開腹止血、洗浄	9件	2件	2件
胃十二指腸穿孔縫合・大網充填	8件	2件	2件
結腸切除	13件	1件	2件
小腸切除	18件	2件	2件
虫垂切除	2件	1件	0件
人工肛門造設	8件	2件	2件
PCPS挿入	54件	18件	18件
血管縫合術	15件	5件	5件
その他	32件	8件	8件
合計	216件	58件	59件

⑤取り扱っている疾患の特徴

Acute Care Surgery(体幹部及び頸部の外傷手術、急性腹症の手術)、軟部組織感染症など緊急性が高く、重症管理・集中治療が必要な手術を当科執刀で行なっています。

- 1) 胸部外科領域：外傷手術(心嚢開創術、心縫合、開胸心マッサージ、肺部分切除、胸壁刺創、胸骨及び肋骨固定術等)
- 2) 腹部外科領域：急性腹症(消化管穿孔、腸管壊死・NOMI、腸閉塞、胆石胆嚢炎、等)、外傷(肝縫合、脾摘、腎縫合、腸管切除等)、フルニエ壊疽
- 3) 頸部領域：刺創による緊急手術(血管縫合、気管・食道縫合等)、気管切開
- 4) 血管外科：PCPS外科的挿入・抜去、末梢動脈縫合
- 5) その他：胃潰瘍・十二指腸潰瘍出血や食道静脈瘤に対する緊急内視鏡止血術

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～	朝 カンファレンス							
9:30～	チームミーティング・病棟回診							
12:00～	家族への病状説明							
13:30～	研修医プログラム(Simulator)							
14:00～	病棟処置							
17:00～	夕 カンファレンス							
(24 時間随時)	初療および緊急手術対応							

5. 診療実績 (2020 年)

年間 外傷手術執刀数 27 件 (ERT 6 例含む)

年間 Acute Care Surgery 執刀数 92 件 (小手術除く)

【専攻医へ向けてメッセージ】

当院は区東北部の医療圏(荒川区・足立区・葛飾区)に密着した臨床中心の教育病院です。各領域とも十分な症例を経験できます。特に Acute Care Surgery 領域の手術は、可能な限り専攻医に術者として経験できるよう配慮しています。超急性期疾患の集中治療に関する多くの症例から学ぶことができます。

2021 年秋には病院機能として第 3 次救急・災害拠点・地域がん診療・高度急性期・周産期母子医療センターを備えた 450 床の新病院として足立区に移転します。国内で 10 数施設しかない、ハイブリッド ER システム(Dual room 型)を導入します。奈良県に匹敵する人口を抱えるこの医療圏唯一の 3 次救急施設で、Acute Care Surgery の第一人者になるべく、多くの緊急症例の執刀を経験しましょう。

連携施設：西新井病院

〒123-0845 東京都足立区西新井本町 1-12-12

TEL 03(5647)1700, FAX 03(5647)1701

URL : <http://nishiarai.or.jp>

1. 地域における役割と施設の特徴

一次、二次救急ほか、災害拠点病院として地域医療を担っています。

一般外科、消化器癌、緩和療法を含め、消化器疾患全般に渡り診療を行っています。

東京女子医科大学東医療センターの関連病院として臨床研修を行うほか、専門性の高い医療を連携し活動をおこなっています。

2. 指導医・外科スタッフ（ 3名）

常勤： 外科専門医・指導医、消化器外科専門医 2名

消化器内視鏡学会専門医 1名 指導医 1名

非常勤：外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医 4名

消化器内視鏡学会専門医 2名 指導医 2名

3. 患者数、病床数、2019年のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患

① 患者数

のべ外来患者数 5513名、入院患者数 4731名

②許可病床数 199床

③2019年のNCD登録数 158件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
胃癌手術症例	3件	0件	3件
大腸癌症例	24件	2件	22件
肝胆膵癌症例	2件	0件	2件
胆石症	45件	20件	25件
ヘルニア症例	29件	25件	4件
救急疾患症例	26件	15件	11件
その他	29件	10件	19件
合 計	158件	72件	86件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器外科として消化器癌（胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌）などから、良性消化器疾患（消化管出血、炎症性腸疾患、ヘルニア、一般外科、肛門疾患）、他救急疾患（急性虫垂炎、消化管穿孔、腹膜炎）を中心に診療に当たっています。また良性疾患、消化器癌に対しても積極的に腹腔鏡下手術を行っています（消化器疾患158例中79例）。その他、化学療法（胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌など）、緩和療法（通院困難症例に対しては在宅療法を導入し、定期的に診療を行っています）。また高度の褥瘡に対しては局所陰圧閉鎖療法などを含め積極的に治療を行っています。その他消化管内視鏡検査も担当していただきます。当院は消化器内視鏡認定施設で内視鏡専門医を目指す先生にも対応しています。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～9:00	朝病棟回診							
9:00～12:0	上部内視鏡検査							
13:30～17:00	下部内視鏡検査							
9:00～	病棟業務							
9:30～17:00	手術							
13:30～17:00	手術							
18:00～18:30	夕病棟回診							
随時	術前カンファレンス							

5. 診療実績

2019年の手術件数は158件で、そのうち79例に腹腔鏡手術を行っています。
2019年度の内視鏡件数は上部消化管 1228件、下部消化管 499件（うちポリペクトミー65件）、RCP 43件 EPPD 26件、ENBD 2件、ERBD 3件、EST 2件、胆管ステント2件

6. 【専攻医へ向けてメッセージ】

当院では消化器良性疾患のみならず、消化器悪性疾患に対し、診断から看取りまで全人的治療を行える研修内容を提供できるように努力しています。単に技術の獲得にとどまらず、自らで考え責任を持って診療に当たるべく、早く独り立ちできるように一緒に研修して行きましょう！

7. 連絡先

〒123-0845
東京都足立区西新井本町 1-12-12
西新井病院 外科部長 今野宗一
TEL 03-5647-1700
FAX 03-5647-1701
Email konnosu@gmail.com

連携施設：埼玉県済生会栗橋病院

〒349-1105 埼玉県久喜市小右衛門 714-6

TEL 048(052)3611, FAX 048(052)0954

URL : <http://www.saikuri.org>

1. 地域における役割と施設の特徴

医療現場で働く喜びを自覚し、医療を通して社会と地域に貢献するという理念のもと、2011年に地域救急センターを開設し、2.5次ともいえる救急医療に積極的に取り組み、地域住民に質の高い医療を提供しています。施設の特徴として当院は東京女子医科大学の特定関連病院として位置づけられ、原則として医師は同大学から派遣されています。このため診療スタッフは常に最新医療を導入する姿勢を持ち続け、診療とともに臨床研究にも力を注いでいます。救急疾患から専門性の高い疾患の治療まで、さまざまな臨床研修が可能な施設です。

2. 指導医・外科スタッフ（7名）

診療技術部長 小池太郎, 診療技術部副部長 小山邦広, 外科部長 丸森健司,
呼吸器外科副部長 宮野裕, 外科副部長 宮田量平, 外科科長 浅井聖子,
外科主任医長 河野鉄平

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数(2019年度実績)

一日平均外来患者数 669.9人

一日平均入院患者数 297.7人

② 許可病床数

329床（一般325床・感染病床4床）

② 2017-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2017年	756件	
2018年	705件	
2019年	654件	
平均	705件	200件

③ 例別経験可能数（術者・助手として経験可能な手術数を記載）2019年度実績

症 例	手術数	術者として	助手として
ヘルニア根治術（腹腔鏡・前方アプローチ）	55件	30件	20件
虫垂切除術（腹腔鏡・開腹）	21件	15件	5件
胆嚢摘出術（腹腔鏡・開腹）	50件	30件	20件
結腸・直腸切除術（腹腔鏡・開腹）	73件	30件	40件
胃切除術（腹腔鏡・開腹）	14件	7件	7件

人工肛門造設術	5件	3件	2件
乳腺手術	21件	10件	11件
胸腔鏡下手術	90件	10件	50件
末梢血管手術	137件	5件	90件
腫瘍摘出術	24件	15件	9件
合 計	490件	155件	157件

⑤取り扱っている疾患の特徴

当院外科は消化器外科・腎不全外科・乳腺外科・呼吸器外科により構成されています。消化器外科では胃・小腸・大腸・肛門・肝胆膵の悪性疾患（胃癌・大腸癌・肝癌・膵癌など）から良性疾患（ヘルニア・胆石症・腸閉塞など）、緊急手術（虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔など）まで、消化器全般の診療・手術を行っています。腎不全外科ではブラッドアクセス手術やカテーテル治療を行い、腎移植も行っています。乳腺外科では乳癌（温存・全摘など）や良性腫瘍の診断・手術を行い、呼吸器外科では主に気胸や肺癌、縦隔腫瘍の手術を行っています。

各領域でプライマリ・ケアから抗がん剤を含めた薬物療法、緩和治療にあたっており、上述疾患の発症初期から終末期までの診療に携わることができます。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:30 ~ 9:00	朝回診							
9:00 ~	病棟業務							
9:00 ~ 17:00	手術							
16:00 ~ 17:00	手術・病理カンファレンス							
17:00 ~ 17:30	死亡症例カンファレンス							
17:45 ~ 18:00	病棟カンファレンス							
18:00 ~ 18:15	新患カンファレンス							
18:15 ~ 18:30	夕回診							
17:30 ~ 18:00	病棟合同カンファレンス							
18:00 ~ 18:30	抄読会・勉強会							

5. 診療実績(参考)

※手術症例数届出事項（症例数は、2019年1月～12月実績）

手術名	症例数
慢性硬膜下血種穿孔洗浄術	(年間症例数: 39件)
脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	(年間症例数: 17件)
経皮的頸動脈ステント留置術	(年間症例数: 13件)
経皮的脳血栓回収術	(年間症例数: 11件)
経皮的冠動脈ステント留置術	(年間症例数: 210件)
経皮的冠動脈形成術	(年間症例数: 43件)

ペースメーカー移植術	(年間症例数: 32 件)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	(年間症例数: 23 件)
胸腔鏡下肺切除術	(年間症例数: 13 件)
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	(年間症例数: 47 件)
肝切除術	(年間症例数: 9 件)
腹腔鏡・胸腔鏡下手術等	(年間症例数: 279 件)
尿道形成手術等	(年間症例数: 41 件)
角膜移植術	(年間症例数: 0 件)
子宮附属器悪性腫瘍手術等	(年間症例数: 0 件)
骨折観血的手術等	(年間症例数: 89 件)
人工関節置換術等	(年間症例数: 26 件)

6. 【専攻医へ向けてメッセージ】

埼玉県北部医療圏の基幹病院として豊富な手術件数があるため、手術経験を積みスキルアップを図るには絶好の環境です。また周術期管理も主治医として上級医の助言を受けつつ責任をもって担当できるため、自らの手で患者さんを治療する喜びと、大切な命を預かる責任感がめばえます。

7. 当施設および担当者の連絡先

〒349-1105

埼玉県久喜市小右衛門 714-6

社会福祉法人恩賜財団済生会支部

埼玉県済生会栗橋病院

TEL0480-52-3611 fax0480-52-0954

担当者

河野鉄平

e-mail kono.teppeii@twmu.ac.jp

連携施設：中通総合病院

〒010-8577 秋田県秋田市南通みその町 3-13

TEL 018(833)1122, FAX 018(831)9418

URL : <http://www.meiwakai.or.jp/nakadori>

1. 地域における役割と施設の特徴

中通総合病院は、社会医療法人明和会のセンター病院として、先端医療と高いレベルのチーム医療で最適な治療方法を提供しています。「いつでも、どこでも、だれでも、患者さんの立場に立った親切で信頼される高いレベルの良い医療を行い、地域医療に貢献していきます」という基本理念のもと、365日24時間の救急医療を展開、全科を挙げて救急医療の強化をはかっています。

また、当院の研修は、外科系、内科系のすべての臨床医に必要な基本的な知識、技能および診療態度を身につけ、「病める人」の全体像を捉えることのできる全人的医療の習得を目的としています。

2. 指導医・外科スタッフ（12名）

指導医 4名

専門医 11名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

外科系（4科） 総入院患者数 3,560人

外科系（4科） 総外来患者数 1,648人

④ 許可病床数

450床（ICU 8床含む）

③2017-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2017年	802件	
2018年	819件	
2019年	724件	
平均	782件	176件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
消化管および腹部内臓	134件	75件	59件
乳腺	16件	0件	16件
心臓・大血管	9件	0件	9件
末梢血管（頭蓋内血管を除く）	5件	2件	3件

頭頸部・体表・内分泌外科等	12件	3件	9件
上記の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡含む）	61件	37件	24件
	件	件	件
	件	件	件
合計	176件	80件	96件

⑤取り扱っている疾患の特徴

- ・ 消化器系（主に消化器癌）の一般的疾患を広く取り扱っている。
- ・ 小児を除く心臓・大血管疾患の殆どをカバーしている。
- ・ 乳腺については殆どが癌疾患。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00 ~ 8:20	手術記録検討会・抄読会							
8:20 ~ 8:45	緊急入院症例カンファレンス							
8:45 ~ 12:00	午前外来							
9:00 ~ 12:00	病棟業務（火、木は総回診）							
9:00 ~	手術							
14:00 ~ 17:00	病棟業務							
17:00 ~ 18:30	化療・手術カンファレンス							
17:30 ~ 18:30	医局会議、MC							

5. 診療実績

当院での研修は以下の内容を到達目標としています。

- ・ 主治医として全人的管理を行い、手術手技の向上を目指し、化学療法、緩和医療、チーム医療を実践する。
- ・ 専門医取得に必要な手術の経験だけでなく、major手術の術者（鏡視下手術では腹腔鏡下胆嚢摘出術の術者）も目指す。
- ・ 学会発表、論文投稿を積極的に行う。
- ・ 将来のサブスペシャリティーを見据えた研修内容とする。
- ・ 消化器外科については、一般外科手術に加え特に内視鏡手術にも力を入れている。

6. 【専攻医へ向けてメッセージ】

主治医として全人的管理を行い、手術手技の向上を目指し、化学療法、緩和医療、チーム医療を実践します。専門医取得に必要な手術の経験だけでなく、Major手術の術者（鏡視下手術では腹腔鏡下胆嚢摘出術の術者）も目指し、学会発表、論文投稿を積極的に行います。大きな飛躍に向かって是非、共に学び合ひましょう

7. 連絡先 (担当者)

〒010-8577 秋田県秋田市南通みその町 3-15

社会医療法人明和会 中通総合病院

副院長・診療部長・消化器外科統括科長 田中雄一

TEL 018-833-1122 FAX 018-831-9418

Email tanaka@meiwakai.or.jp

7. 連絡先 (担当者)

〒010-8577 秋田県秋田市南通みその町 3-15

社会医療法人明和会 中通総合病院

副院長・診療部長・消化器外科統括科長 田中雄一

TEL 018-833-1122 FAX 018-831-9418

email tanaka@meiwakai.or.jp

連携施設：新潟県立がんセンター新潟病院

〒951-8566 新潟県新潟市川岸町 2-15-3

TEL 025(266)5111, FAX 025(233)3489

URL：<http://www.niigata-cc.jp>

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は新潟県の都道府県がん診療連携拠点病院としてがん医療の指導的な立場にあり、多くの癌腫の先進的な治療を行っています。低侵襲を目指した鏡視下手術、更には根治を目指した拡大手術などにも力を入れています。標準的治療を提供すること原則とし、術後合併症も少なく、良好な治療成績が得られています。経験豊富な専門スタッフが主治医となり、常に同じ熟練医チームが治療を担当します。患者さんから信頼を得ること、最後まで投げ出さず責任をもって対応すること、患者さんと同じ目線で話をすることを心がけています。新潟らしく粘り強く、暖かい、思いやりのある医療ができることを喜びとしています。

2. 指導医（13名）

1) 消化器外科

中川 悟、藪崎 裕、野村 達也、丸山 聡、松木 淳、野上 仁、會澤 雅樹、高野 可赴、番場 竹生

2) 乳腺外科

佐藤 信昭、神林 智寿子

3) 呼吸器外科

青木 正、岡田 英

3. 患者数、病床数、NCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数（2019年） 延べ総入院患者数：122,345名
延べ総外来患者数：241,657名

② 許可病床数 421床

③ 2018年のNCD登録数 1353例

④ 症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

1. 消化管および腹部内臓	700例（70例）
2. 乳腺	345例（35例）
3. 呼吸器	300例（30例）
4. 心臓・大血管	0例（0例）

5. 抹消血管	0例 (0例)
6. 頭頸部・体表・内分泌外科	1例 (0例)
7. 小児外科	0例 (0例)
8. 上記1～7の各分野における内視鏡手術	601例 (60例)
9. 外科領域 (上記1～7) 合計	1346例 (135例)
10. 外科専攻医の経験症例とはならないNCD登録症例	7例 (1例)
11. 外科領域 (上記9および10) 合計	1353例 (136例)

⑤取り扱っている疾患の特徴

当院はがん専門病院のため、取り扱っている疾患のほとんどは悪性疾患です。特に手術を中心とした治療が中心であり、鏡視下手術から拡大手術まで多くの術式を取り入れております。また、化学療法や化学放射線治療による集学的治療も積極的に施行し、コンバージョン手術も多く手がけております。また、緩和ケア科医師と共に、終末期医療にも力を入れております。がん治療を支える背景となる医療・就労・福祉などに関するさまざまな不安や悩みを解決すべく相談支援センターを設置し、外来通院患者さんを支える努力もしております。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:30	消化器外科・乳腺外科カンファレンス		■			■		
17:00-18:30	上部消化管チームカンファレンス		■					
8:40-9:00	大腸チームカンファレンス				■			
17:00-18:00	肝胆膵チームカンファレンス	■						
17:00-18:00	乳腺外科カンファレンス		■		■			
15:00-17:00	呼吸器外科カンファレンス		■			■		
16:00-18:00	呼吸器外科・内科・放射線科・病理カンファレンス			■				
9:00-17:15	消化器外科外来	■	■	■	■	■		
9:00-17:15	乳腺外科外来	■	■	■	■	■		
9:00-17:15	呼吸器外科外来	■	■	■	■	■		
17:00-18:00	消化器内視鏡カンファレンス		■					
10:00-17:15	手術	■	■	■	■	■		
17:10-18:10	キャンサーボード 第3火曜		■					
17:30-19:00	多施設メディカルカンファレンス				■			
18:00-18:30	消化器外科勉強会			■	■			

5. 【専攻医へ向けてメッセージ】

専攻医のみなさん、専門研修で忙しい毎日を過ごしていることと思います。現在、日本は二人に一人ががんにかかると推測されております。今後の医療においてがん診療は欠かせないものであり、その経験と知識は必須であると思われます。当院はがん専門病院であり、がん診療を志す医師の研修に非常に有益な場を提供できるものと思ひます。

がん治療の中でも、手術の占める役割は大きく、最近では鏡視下手術も多く実施しております（症例数参照）。当院は年間 5000 例を超える手術を行っており、その 10%強が鏡視下の手術です。外科領域専門研修においても、一般的な手術手技に加え、鏡視下手術の指導も行っており、十分に満足できる研修になると思ひております。

抗がん剤治療に精通した医師も多く、免疫チェックポイント阻害薬に代表される新規抗がん剤などに対する知識も広く得ることが可能です。また、放射線治療は年間 1000 例を超え、手術、抗がん剤及び放射線を組み合わせた集学的治療も行われております。緩和ケア科では、がん患者の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題に対応し、患者及び家族の QOL の改善にも取り組んでおります。

将来、がん診療を志す医師のみでなく、外科医としてのあり方を真剣に考える医師としての基礎を築くには、最良の場であると思われます。ぜひ、我々と共にこれからのがん診療を共に考え、多くの臨床経験を積んで頂きたいと思ひます。

2018 年の各術式の症例数（鏡視下手術症例数）

食道切除再建術	31 例（17 例）
胃切除術（噴門側を含む）	128 例（104 例）
胃全摘術	32 例（7 例）
結腸悪性腫瘍手術	125 例（102 例）
直腸悪性腫瘍手術	70 例（64 例）
肝切除術	50 例（4 例）
膵頭十二指腸切除術	25 例（0 例）
乳癌手術	333 例（0 例）
原発性肺癌	215 例（202 例）

6. 連絡先

病院名：新潟県立がんセンター新潟病院

住所：新潟市中央区川岸町 2-15-3

TEL：025-266-5111

担当者：中川 悟

e-mail：satoru-n@niigata-cc.jp

URL：<http://www.niigata-cc.jp>

連携施設：いずみ記念病院

〒123-0653 東京都足立区本木 1-3-7

TEL 03(5888)2111, FAX 03(5888)2112

URL : <http://izumikinen.or.jp>

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は急性期医療も行っているリハビリ病院です。急性期医療としては通常の内科診療、外傷・骨折等の整形外科診療、胃・大腸の内視鏡治療から消化器外科手術を行っています。救急医療では東京都二次救急医療指定機関で、地域救急医療センター・災害拠点連携病院でもあります。

リハビリ施設は回復期病床を 90 床有し、365 日リハビリを行っています。また平成 26 年度から東京都地域リハビリ支援センターにも認定されています。

2. 指導医・外科スタッフ（5名）

外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医 計 5 名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

平成 27 年	総入院患者数 45,742 名、	総外来患者数 62,358 名
平成 28 年	総入院患者数 48,912 名、	総外来患者数 63,180 名
平成 29 年	総入院患者数 48,825 名、	総外来患者数 63,213 名
平成 30 年	総入院患者数 48,251 名、	総外来患者数 60,785 名

②許可病床数

急性期 54 床 回復期 90 床

③2014-2018年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2014 年	76 件	
2015 年	567 件	
2016 年	599 件	
2017 年	354 件	
2018 年	138 件	
平均	346 件	件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
胃癌	7 件	0 件	7 件
結腸癌・直腸癌	18 件	0 件	18 件
胆石	16 件	0 件	16 件

鼠径ヘルニア	9件	4件	5件
急性虫垂炎	3件	1件	2件
その他消化管	10件	0件	10件
外傷	20件	20件	0件
呼吸器	19件	0件	0件
合 計	102件	25件	58件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器では上下部及び胆道内視鏡検査、治療を積極的に行っています。
毎週火曜・水曜を手術日として予定手術を行っています。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
9:00～13:00	外来診療							
14:00～17:00	外来診療							
9:00～17:00	手術							
9:00～13:00	上部消化管内視鏡検査							
14:00～17:00	大腸内視鏡検査・ERCP							

5. 診療実績（年間件数）

手術のみならず消化器内視鏡検査・治療を数多く経験できるのも当院の特徴です。

上部消化管内視鏡検査	1,249件
大腸内視鏡検査	638件
ERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)	51件
腹腔鏡下手術	22件
鼠径ヘルニア手術	9件
胃・大腸手術	25件
その他手術	82件

6. 専攻医に向けたメッセージ

できるだけ研修内容のご要望にはお応えしております。
東京都内の地域医療を学ぶにはよい機会です。ぜひ一緒に治療にあたってみましょう。

7. 連絡先

担当者 村山 実

TEL 03(5888)2111

email izumikinen@sky.plala.or.jp

連携施設：滝不動病院

〒274-0813 千葉県船橋市南三咲 4-13-1

TEL 047(448)6881, FAX 047(449)2165

URL : <http://www.takifudo.jp/index.html>

1. 地域における役割と施設の特徴

来院された患者様に適切な医療サービスを提供します。

地域に根ざした皆様の主治医として、安心して受診していただけるよう努めます。

患者様と御家族に配慮して診療いたします

専門分野である肛門外科(肛門科)では一流の医療を提供いたします

近隣医療機関とネットワークを結び、連携しながら診療を行います

2. 指導医・外科スタッフ（3名）

外科医師 常勤2名、非常勤1名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

総入院患者数（実数） 450人、総外来患者数（実数） 3040人

②許可病床数

一般病棟30床、医療療養病棟21床

③2017-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2017年	137件	
2018年	119件	
2019年	94件	
平均	116件	116件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
体表手術（皮下良性腫瘍摘出）	8件	8件	0件
気管切開	1件	1件	
単径ヘルニア手術	2件	2件	
肛門手術	83件	83件	0件
合計	94件	94件	0件

⑤取り扱っている疾患の特徴

肛門疾患（痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍など）を中心に消化器疾患一般を広く扱って

います。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：00	外来診療		■	■	■	■	■	
13：00～14：00	内視鏡検査・手術		■	■	■	■		
14：00～17：00	外来診療		■	■	■	■		

5. 診療実績

2019年実績を示します。

- ・肛門手術 83 件
- ・皮下良性腫瘍摘出術（体表手術） 8 例
- ・気管切開 1 例
- ・兪径ヘルニア手術 2 例

6. 【専攻医へ向けてメッセージ】

臨床医として幅広い地域医療を提供しつつ、
大腸肛門領域では専門性の高い医療提供を心掛けています。

7. 連絡先

担当者名：松本敦夫、電話：047-448-6881、
e-mail:a_matsu_takifudou@yahoo.co.jp

連携施設：流山中央病院

〒270-0114 千葉県流山市初石 2-132-2

TEL 047(154)6741, FAX 047(155)0450

URL : [http:// www.nch.or.jp](http://www.nch.or.jp)

1. 地域における役割と施設の特徴

人口約 20 万人の流山市は人口増加率で千葉県 1 位となっており、特に近年は 30-40 代の人口が増えています。その流山市で手術を行える総合病院は当院を含め 3 病院しかなく、外科では救急疾患・一般的な外科疾患から各種消化器癌の専門的治療まで多岐にわたる治療を行っています。また 2019 年の関連リハビリテーション病院開設に伴い、2020 年 4 月から従来の回復期病床 40 床を急性期病床に変更し、156 床すべて急性期病床の病院へと生まれ変わりました。今後さらに急性期疾患、外科系手術の対応を拡充していく方針です。

2. 指導医・外科スタッフ（3名）

常勤；外科指導医 1 名，外科専門医 2 名

3. 患者数、病床数、3 年間の NCD 登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

病院全体の 2020 年の総外来患者数は 134,930 名、総入院数は 46,105 名
外科外来患者数は 5,715 名，外科入院数は 3,123 名
外科外来は週 6 日で、20-25 名/日

②許可病床数

病院全体は 156 床
外科・内科病棟は混合病棟で 40 床
外科入院患者数は平均で常時 10-15 名前後。

③2014-2019 年の NCD 登録数

	施設全体
2014 年	221 件
2015 年	169 件
2016 年	196 件
2017 年	147 件
2018 年	204 件
2019 年	207 件
平均	191 件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
胃癌	22 件	10 件	12 件
大腸癌	22 件	10 件	12 件
肝胆膵の悪性疾患	1 件	0 件	1 件
鼠径ヘルニア	32 件	30 件	2 件
胆嚢結石症・胆嚢炎	45 件	30 件	15 件
虫垂炎	15 件	10 件	5 件
局麻手術	27 件	20 件	7 件
胃癌，大腸癌内視鏡治療	13 件	3 件	10 件
その他消化器疾患	30 件	12 件	18 件
合 計	207 件	125 件	82 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化管・肝胆膵領域の悪性疾患や胆嚢結石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎、内痔核等の一般外科疾患まで幅広くカバーしており、その診断から治療までを担当しているのが特徴です。

消化管出血や大腸ポリープ、早期胃癌・大腸癌に対する内視鏡治療も行っています。手術に関しては開腹手術に加え、胆嚢結石症や虫垂炎、鼠径ヘルニア、胃癌や大腸癌等に対し積極的に腹腔鏡手術を導入しており、現在、消化器手術の約 60%に腹腔鏡手術を行っています。また、消化器癌に対しては手術治療だけでなく、化学療法、緩和医療も含めた総合的な医療を行っています。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:15- 8:30	病棟カンファレンス							
8:30- 9:00	回診							
9:00- 12:00	外来							
9:00- 12:00	上部消化管内視鏡検査							
14:00- 17:00	下部部消化管内視鏡検査							
13:00- 18:00	手術						△	
17:00- 18:00	回診							
13:00- 14:00	術前・術後カンファレンス							
13:00- 14:00	小手術							

5. 診療実績

2018 年の手術件数は 207 件で、うち全身麻酔症例が 151 例（腹腔鏡手術は 87 例に対して施行）でした。

また早期大腸癌に対する ESD が 5 件，早期胃癌に対する ESD を 8 件施行しました。

6. 【専攻医へ向けてメッセージ】

当院では2名の消化器外科専門医（1名は指導医）が常勤しており、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどの基本的な手術から胃癌、大腸癌、肝胆膵領域の癌の手術まで対応しています。専攻医にとって外科の基本的な手術を学ぶには非常に適した施設と考えています。また内視鏡検査および治療も積極的に行っており、検査から治療まで一貫した流れを学ぶことができます。

是非、東京女子医科大学東医療センターの外科領域専門研修プログラムに入り、当院で研修していただきたいと思えます。

7. 連絡先

流山中央病院 外科部長 山口健太郎

e-mail: yamagusu@twmu.ac.jp

TEL 047(154)6741, FAX 047(155)0450

連携施設：川口誠和病院

〒334-0074 埼玉県川口市江戸 3-25-46

TEL 047(154)6741, FAX 047(155)0450

URL : [http:// www.kawaguchi-seiwa-hp.com](http://www.kawaguchi-seiwa-hp.com)

1. 地域における役割と施設の特徴

川口市の地域関連病院として一次・二次救急医療を担っています。

また東京女子医科大学東医療センターの関連施設として、病病連携しています。

2. 指導医・外科スタッフ（3名）

常勤：外科専門医・指導医 3名

非常勤：外科専門医・指導医, 消化器外科専門医・指導医の計 3名が手術や検査手技の指導を担当します。

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

のべ総入院患者数：29333名(2019年)

のべ総外来患者数：64734名(2019年)

常時、70名以上の患者の入院治療を行っています。

②許可病床数

一般病棟 60床 療養病棟 40床

③ 2017-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2017年	409件	
2018年	378件	
2019年	438件	
平均	408件	

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
消化器疾患	26件	20件	16件
乳腺疾患	37件	27件	10件
体表疾患	277件	50件	0件

内視鏡的治療	92件	10件	0件
中心静脈用注射用植込型カテーテル設置	3件	3件	0件
その他の症例	3件	0件	3件
合 計	438件	110件	29件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器疾患(内科・外科)、乳腺疾患を中心に診療を行っています。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00	病棟回診							
8:30-12:00	外来診療							
8:30-12:00	病棟業務							
14:00-17:00	手術							
17:00-17:30	術前・術後カンファレンス							
17:00-17:30	X線読影カンファレンス							
9:00-12:00	上部消化管内視鏡検査・エコー							
14:00-17:00	下部消化管内視鏡検査							

5. 診療実績

- ・地域に根ざした外来・入院診療を行っています。
- ・一次・二次救急治療も積極的に診療していますが、治療困難例は東京女子医科大学東医療センターだけでなく、地域の中核病院とも連携し対応しています。
- ・外傷の縫合処置, 内視鏡的治療(ポリペクトミー, 胆管結石切石術), CVポート挿入など小外科分野も多く経験できます。

6. 【専攻医へ向けてメッセージ】

当院では外科治療だけでなく診断、化学療法、緩和ケア、看取りまで包括的な医療を研修できるようサポートして参ります。

7. 外科専門研修プログラム連携施設担当者

川口誠和病院 服部 晃典
〒334-0074 埼玉県川口市江戸 3-35-46
TEL 048(285)0661 FAX 048(283)7957
Email hattori.akinori@twmu.ac.jp

連携施設：東大和病院

〒207-0014 東京都東大和市南街 1-13-12

TEL 042(562)1411, FAX 042(562)1439

URL : [http:// www.yamatokai.or.jp/higashiyamato/](http://www.yamatokai.or.jp/higashiyamato/)

1. 地域における役割と施設の特徴

東大和病院は、東大和市において唯一の急性期医療を行っている地域中核病院です。救急医療を中心とした公益性の高い医療を提供し、医療スタッフを充実させ、チーム医療を重視し、地域医療に寄与してまいりました。現在も高度先進医療に取り組むべく日々精進しております。

当院附属セントラルクリニックを開設し、また地域医療支援病院を取得し、更なる近隣医療機関との医療連携を進めております。「病院完結型医療」から「地域完結型医療」への転換という時代の大きな流れの中で、真に地域の皆様から求められる病院となり、地域全体の医療体制の確立に貢献したいと考えております。

また附属セントラルクリニックには 320 列 MDCT や 3.0 テスラ MRI、姉妹病院である武蔵村山病院（300 床）には PET-CT や放射線照射装置などの高度医療機器を備えており、両病院は電子カルテで情報を共有し利便性を図っています。

チーム医療重視の観点から、臓器別に診療科を内科および外科で統合してセンター化していることが当院の特徴です。具体的には、心臓血管センター、消化器センター、脳神経センター、呼吸器センター、整形外科センター、腎泌尿器センターとして機能しています。また医療安全管理や感染防止対策、各種サポートチーム（栄養、呼吸、糖尿病、認知症、骨粗鬆症など）も円滑に活動しています。

2. 指導医・外科スタッフ（10名）

外科学会指導医：5名（心臓血管外科：2名、消化器外科：3名）

外科専門医：10名（心臓血管外科：3名、消化器外科：5名、乳腺外科：2名）

心臓血管外科専門医：3名（同修練指導者1名）

消化器外科専門医：2名（同指導医2名）、乳腺専門医：1名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（のべ：2019年実績）

外来患者数は、病院およびセントラルクリニックの合計

消化器センター 入院：19,483人/年 外来：38,272人/年

心臓血管センター 入院：14,657人/年 外来：25,079人/年

呼吸器センター 入院：17,324人/年 外来：13,085人/年

②許可病床数

一般病床のみ：284床（病院全体）

消化器センター：60床 心臓血管センター：50床 呼吸器センター：40

床

③2017-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2017年	538件	
2018年	633件	
2019年	629件	
平均	600件	件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

2019年の心臓血管外科症例数（⑦以外はNCD登録で重複なし）から

症例	手術数	術者として	助手として
① 虚血性心疾患	16件	0件	16件
② 心臓弁膜症	9件	0件	9件
③ 胸部大動脈疾患	4件	0件	4件
④ 心臓腫瘍	0件	0件	0件
⑤ 腹部大動脈疾患	14件	7件	7件
⑥ 末梢血管疾患	88件	30件	58件
⑦ その他	21件	11件	10件
⑧ ペースメーカー移植術	48件	32件	16件
合計	200件	80件	120件

⑤取り扱っている疾患の特徴

(1) 心臓血管外科

虚血性心疾患、心臓弁膜症、胸部および腹部大動脈疾患、成人先天性心疾患、末梢血管疾患など

(2) 消化器外科・乳腺外科

大腸がん、胃がん、乳がん、食道がん、膵がん、肝がんなど
イレウス、虫垂炎、胆石症、ヘルニア（成人）など

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～8:30	心臓血管センター合同カンファレンス・回診							
16:30～17:00	心臓血管センター合同カンファレンス・回診							
16:00～16:30	心臓血管外科術前カンファレンス							
9:00～17:00	心臓血管外科手術日							
8:00～8:30	消化器センター合同カンファレンス							
8:00～8:30	消化器センター合同回診							
13:00～13:30	消化器外科術前カンファレンス							
9:00～17:00	消化器外科手術日および検査日							

5. 診療実績

(1) 心臓血管外科

虚血性心疾患（冠動脈バイパス術・左室形成術）、心臓弁膜症（弁置換術・弁形成術）、胸部および腹部大動脈疾患（人工血管置換術・ステントグラフト挿入術）、成人先天性心疾患、不整脈（メイズ手術）、ペースメーカー移植術、末梢血管疾患（人工血管バイパス術・血管内治療とのハイブリッド手術）、透析シャント作成術

(2) 消化器外科・乳腺外科

大腸がん、胃がん、乳がん、食道がん、膵がん、肝がんに対する手術
腹腔鏡下手術は胆嚢摘出術、虫垂切除術、大腸癌切除術、幽門側胃切除術、鼠径ヘルニア根治術など 2019 年は手術全体の約 60%

(3) 小児外科

他の領域で認められている 16 歳未満の手術

(4) 頭頸部・体表・内分泌外科

大半が皮膚軟部組織であり、形成外科が担当していますが研修可能

*【専攻医へ向けてメッセージ】

本プログラムにおける当院の経験症例は、心臓血管外科領域が主なものとなります。循環器内科と統合したハートチームとしての診療体制をとっておりますので、種々のカテーテルインターベンションも同時に経験でき、集約的に循環器医療を取得できるものと自負しております。また消化器外科や形成外科も研修可能です。

*連絡先

担当者：心臓血管外科
総務課

野地 智 (email: noji-cvs@yamatokai.or.jp)
山本 雄三 (email: yamayuzo1@yamatokai.or.jp)

連携施設：彩の国東大宮メディカルセンター

〒331-0804 埼玉県さいたま市土呂町 1522

TEL 048(665)6111, FAX 048(665)6112

URL : <http://www.shmc.jp>

1. 地域における役割と施設の特徴

埼玉県がん診療指定病院としてがん診療に重点をおくとともに救急医療にも力をいれています。平成 27 年 7 月に新築移転、さいたま市初の緩和ケア病棟を開設し、手術室、ICU、放射線治療、PET-CT その他最新の医療設備を備えています。平成 29 年 7 月には、米国の国際的医療機能評価期間である JCI (Joint Commission International)により 14 分野 1400 項目にわたる審査を受け、国際基準の安全性と医療の質を満たした全国で 24 番目の認定病院となりました。

2. 指導医・外科スタッフ（8名）

外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、内視鏡外科技術認定医(2名)、肝胆膵外科高度技能専門医(1名)、乳腺専門医(1名)などの資格を有するスタッフ 8 名が専攻医の指導にあたります。

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

外来 672 人/日

入院 295 人/日 (いずれも平成 26 年度)

②許可病床数

337 床

③2016-2018年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2016年	1,099 件	
2017年	1,031 件	
2018年	1,012 件	
平均	1,047 件	件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
胃切除（開腹）	6 件	1 件	5 件
胃切除（腹腔鏡）	16 件	0 件	16 件
結腸切除（開腹）	11 件	4 件	7 件
結腸切除（腹腔鏡）	48 件	5 件	43 件
肝切除（開腹）	10 件	0 件	10 件
肝切除（腹腔鏡）	5 件	0 件	5 件

膵切除	13 件	0 件	14 件
鼠径ヘルニア	76 件	5 件	71 件
胆嚢摘出	52 件	24 件	28 件
乳腺手術	30 件	0 件	30 件
虫垂切除（腹腔鏡）	27 件	19 件	8 件
肺切除（胸腔鏡）	6 件	5 件	1 件
その他	118 件	61 件	57 件
合 計	418 件	124 件	294 件

（2017 年 1 月～12 月までの 1 名の派遣医師の経験症例）

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器手術に対する腹腔鏡手術を積極的に施行しています。このうち腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の症例数は全国有数です。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
15:00-16:00	病棟カンファレンス							
16:00-17:00	手術カンファレンス（放射線科合同）							
17:00-18:00	消化器カンファレンス（外科・消化器内科合同）							
9:00-17:00	手術							
18:00-19:00	肝臓カンファレンス（外科肝胆膵チーム・肝臓内科）							
8:30-9:00	病棟回診・病棟業務							
9:00-12:00	外来診療							

5. 診療実績

肝胆膵外科高度技能専門医 2 名，内視鏡外科技術認定医が 2 名在籍し，消化器悪性腫瘍全般の手術を行っています。胃癌・結腸癌・直腸癌に対しては腹腔鏡手術を積極的に施行しており、肝切除（部分切除および系統切除）もほぼ全例を腹腔鏡下で行うようになってきています。腹部救急疾患にも力をいれており、胆嚢結石，虫垂炎などの良性疾患・気胸，消化管穿孔，腸閉塞などの緊急手術も多く経験できます。また、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の症例数は全国有数で、他施設からの手術見学も受け入れています。

5. 【専攻医へ向けてメッセージ】

消化管・肝胆膵悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術に加えて消化管穿孔、胆嚢炎、虫垂炎、腸閉塞など救急症例も積極的に受け入れており、専攻医の先生方にも多数の手術経験を積んでいただけるものと考えています。当院で充実した研修を受けられるよう努力いたします。

6. 連絡先

金 達浩 (副院長・外科部長)

e-mail : tkim@shmc.jp

野口寛美 (臨床研修センター)

e-mail : hiromi.noguchi@shmc.jp

Tel. : 048-665-6111

連携施設：三和病院

〒270-2253 千葉県松戸市日暮 7-379

TEL 047(712)2253, FAX 047(712)0200

URL：<http://www.sannwa-hsp.or.jp>

1. 地域における役割と施設の特徴

地域の要、乳腺センターの役割として以下があげられます。

- ① 乳がんを始めとする乳腺の様々な病気の診断と治療
- ② 形成外科との連携による乳房再建術
- ③ 術後のリハビリテーション科との連携による患者サポート
- ④ 松戸市乳がんマンモグラフィー市検診の受託
- ⑤ 乳がんの正しい知識の発信

2. 指導医・外科スタッフ（2名）

外科専門医・指導医、消化器外科専門医、乳腺専門医が専攻医の指導にあたりま
す。

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の 特徴

①患者数

2019年のべ総入院患者数：14,091名

2019年のべ総外来患者数：55,873名

④ 許可病床数

50床

③2013-2019年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2013年	病院新設	
2014年	76件	
2015年	319件	
2016年	368件	170件
2017年	317件	170件
2018年	402件	200件
2019年	474件	250件
平均	326件	

(参考 2014年8月1日開院のため2014年より登録、2015年実績280件)

④症例別経験可能数（術者または助手として経験可能な手術数を記載：2015年～）

症 例	手術数	術者として	助手として
乳がん	300 件	100 件	150 件
乳房再建	10 件	3 件	7 件
鼠径ヘルニア	3 件	3 件	0 件
大腸がん	0 件	0 件	0 件
良性乳腺腫瘍	10 件	10 件	0 件
	件	件	件
合 計	323 件	116 件	157 件

⑥ 取り扱っている疾患の特徴

乳腺疾患が約 98%、消化器外科疾患が約 2%の割合となっています。

4. 週間スケジュール

時 間/内 容	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:00 外来 14:00-17:00 手術	■						
9:00-12:00 外来 14:00-病棟業務		■					
9:00-12:00 手術 14:00-17:00 手術			■				
9:00-12:00 外来 14:00-17:00 手術					■		
9:00-12:00 外来						■	

5. 診療実績

2014年8月1日(開院)～2015年7月31日	乳がん手術	276 件
2016年1月1日～2016年12月31日	乳がん手術	305 件
2017年1月1日～2017年12月31日	乳がん手術	321 件
2018年1月1日～2018年12月31日	乳がん手術	314 件
2019年1月1日～2019年12月31日	乳がん手術	369 件

6 【専攻医へ向けてメッセージ】

当院は乳癌治療にかなり特化した病院です。乳癌手術を中心としたトレーニングには最適な研修環境だと思います。

7. 担当 乳腺外科部長 渡辺 修

TEL: 047-712-0202

Mail: watanaos119@yahoo.co.jp

連携施設：東京女子医科大学八千代医療センター

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田 477-96

TEL 047(450)8524, FAX

URL:<http://www.twmu.ac.jp/TYMC/index.html>

1. 地域における役割と施設の特徴

本学の理念である「至誠と愛」に基づき、信頼される病院を目指します。患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。患者さんに合った最善のチーム医療を行います。中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し、健康を維持・増進します。

2. 指導医・外科スタッフ（14名）

消化器外科

教授（病院長）新井田達雄
臨床教授（診療科長）片桐聡
准教授 太田正穂
講師 鬼沢俊輔
講師 丹羽由紀子
准講師 杉下敏哉

呼吸器外科

教授（副院長）関根康雄
准教授（診療科長）星野英久
講師 黄 英哲

乳腺・内分泌外科

講師（診療科長）地曳典恵

心臓血管外科

講師（診療科長）齋藤博之

小児外科

臨床教授（診療科長）幸地克憲
准講師 武之内史子

小児心臓血管外科

准教授（診療科長）平松健司

日本外科学会指導医：新井田達雄、福永正氣、関根康雄、平松健司、片桐聡、太田正穂、星野英久、丹羽由紀子

3. 症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
消化器疾患等（年）	約 500 件	50 件	150 件
呼吸器疾患等（年）	約 200 件	6 件	60 件
乳腺・内分泌疾患等（年）	約 100 件	3 件	30 件
心臓血管外科疾患等（年）	約 100 件	1 件	30 件
小児外科疾患等（年）	約 400 件	80 件	120 件
救命救急疾患等（年）	約 200 件	10 件	60 件
合 計	約 1,500 件	150 件	450 件

4. 取り扱っている疾患の特徴

消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、小児外科とも、移植医療以外はすべての疾患を網羅し、手術を中心に治療を行なっている。

診療科	疾患の特徴
消化器外科	すべての消化器疾患（食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵など）を網羅し、検査、治療を行っている。外科的治療の他、ESD、胃瘻造設等の内視鏡治療や腹腔鏡手術も行っている。
呼吸器外科	肺腫瘍(肺癌など悪性腫瘍、血管腫・結核腫など良性腫瘍)、胸腺腫・神経鞘腫などの縦隔腫瘍、胸膜中皮腫、気胸・肺嚢胞、肺気腫、膿胸・胸膜炎、重症筋無力症、漏斗胸等の呼吸器外科的疾患全般の診療を行っている。
乳腺外科	乳がん、乳腺良性腫瘍、乳腺炎を取り扱う。腫瘍が大きい方には術前の薬物治療を行い、術後は、将来の再発を予防するために薬物治療や放射線治療を行う。
心臓血管外科	先天性心疾患・虚血性心疾患・大動脈瘤・弁膜症・不整脈・重症心不全など全ての心疾患に対し外科治療を行っている。また複雑心奇形や重症心不全治療と再生医療も本院との連携下で行なっている。
小児外科	出産直後の新生児期から学童期(16歳未満)までの頭頸部・呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌臓器・体表・小児腫瘍・小児泌尿生殖器など幅広い疾患を扱っている。
救命救急センター	あらゆる分野の重症患者を24時間受け入れている。心肺停止の重症者をはじめ、緊急手術を要する患者、中毒、外傷なども対象である。また、心疾患、呼吸器疾患、頭部疾患も受け入れ、専門医と協力し治療している。

5. 週間スケジュール

消化器外科

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:20～	病棟カンファレンス							
18:00～	症例検討会							
9:00～	手術							
9:00～	回診							
9:00～	検査（内視鏡など）							

呼吸器外科

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:20～	病棟回診							
9:00～	手術							
14:00～	検査（気管支視鏡など）							
15:30～	カンファレンス							
16:20～	病棟回診							

乳腺・内分泌外科

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:20～	病棟回診							
9:00～	手術							
16:30～	病棟回診							
13:30～	検査（生検など）							
17:00～	症例検討会							

心臓血管外科

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:15 ～	ICU 病棟回診							
17:30～	症例検討会							
9:00～	手術							
16:00～	ICU 病棟回診							

小児外科

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:30～	ミーティング 朝回診							
9:00～	手術							
17:00～	夕回診							
13:00～	画像検査、造影検査							
17:00～	症例検討会							

6. 【専攻医へ向けてメッセージ】

消化器外科

手術症例は500例を超え年々増加しています。日本外科学会専門医(9名)・指導医(5名)と日本消化器外科学会専門医(7名)・指導医(6名)から、肝胆膵外科高度技能指導医(新井田、片桐)、食道外科専門医(太田、丹羽)、内視鏡外科技術認定医(福永、石多)も在籍し、あらゆる消化器疾患に対して専門的な診断治療ができる体制を整えています。がん薬物療法専門医(倉持)も消化器外科内で活躍しており、最新のがん化学療法を行っています。院内各科との相互連携でも、救急科と連携下に腹部救急に対しては迅速に対応しています。

呼吸器外科

胸部の呼吸器・縦隔・胸壁に対する内視鏡検査や外科治療を中心に行っています。肺がんや胸腺腫などの悪性腫瘍と自然気胸などの良性疾患、肺膿瘍などの感染・炎症性疾患の症例を多く扱っており、70%の症例で胸腔鏡下手術を行い、通常術後気胸で2日、肺がんで6日ほどの術後入院期間です。癌に対しての術後抗がん剤治療も外科で積極的に行っています。新患患者数および手術件数は年々増加傾向を示しています。手術の約半数が肺癌で、以下自然気胸、胸腺腫、転移性肺癌、悪性胸膜中皮腫などの手術が多くみられます。手術関連死亡はなく、肺炎などの重い術後合併症は2%以下であります。

乳腺・内分泌外科

乳がん、乳腺良性腫瘍、乳腺炎を取り扱う。腫瘍が大きい方には術前の薬物治療を行い、術後は、将来の再発を予防するために薬物治療や放射線治療を行っています。

心臓血管外科

2012年より手術を開始し、成人心臓血管外科(虚血性、弁膜症、大血管)手術を担当しています。手術症例は2012年21例、2013年102例、2014年115例と年々増加傾向です。新病棟竣工後は循環器内科とともにハートセンターを立ち上げ、シームレスな循環器疾患治療体制を整えていきます。

小児外科

平成26年度の手術件数は387例でした。対象としている疾患も幅広く、頭頸部18例、胸部(漏斗胸を含む)19例、腹部疾患201例、泌尿器疾患89例、外傷10例などあります。検査では、CT、MRIはもとより、消化管や泌尿器などの造影検査、内視鏡を用いた気管(6)、食道/胃/

十二指腸（55）・大腸（6）・膀胱（15）などの検査も積極的に行っています。

7. 連絡先

病院名：東京女子医科大学附属八千代医療センター

住 所：〒千葉県八千代市大和田新田 477-96

T E L：047-458-6000（内線 2432）

e-mail：ymckouki.cb@twmu.ac.jp ogata.seiichiro@twmu.ac.jp

担当者： 後期研修事務担当 井上賢一、消化器外科 片桐聡

U R L：www.twmu.ac.jp/TYMC/

連携施設：国立がん研究センター東病院

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

TEL 04(7133)1111, FAX 04(7130)0211

URL:<https://www.ncc.go.jp/jp/ncc/index.html>

1. 地域における役割と施設の特徴

国立がん研究センター東病院では、すべての患者さんに世界最高レベルのがん医療を提供するため、様々な職種からなる「多職種チーム」で患者さんにとってベストの治療を選択し、きめ細かなサポートを行っています。

ロボット支援手術や陽子線をはじめ、最新の医療機器を有し、内視鏡治療や体への負担が少ない低侵襲手術、また、薬物療法や数多くの治験に取り組んでいます。がんの治療が円滑に進むように、医師や看護師などのスタッフが一丸となって、初診時から退院後まで、切れ目のない支援を提供しています。また、「オンラインがん相談」も開始し、地元の医療施設と連携を取りながら、遠方の患者さんにもベストながん治療を提供することを目指しています。

2. 指導医 (5名)

1)呼吸器外科 坪井 正博、青景 圭樹、鮫島 譲司、
三好 智裕、多根 健太

3. 患者数、病床数、NCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数 (2020年) 延べ総入院患者数：147,051名
延べ総外来患者数：297,220名

② 許可病床数 425床

③2019年のNCD登録数 2,684例

④症例別経験可能数 (術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載)

1. 消化管および腹部内臓	1628例 (0例)
2. 乳腺	426例 (0例)
3. 呼吸器	602例 (21例)
4. 心臓・大血管	0例 (0例)
5. 抹消血管	0例 (0例)
6. 頭頸部・体表・内分泌外科	0例 (0例)
7. 小児外科	0例 (0例)
8. 上記1～7の各分野における内視鏡手術	1650例 (74例)
9. 外科領域 (上記1～7) 合計	1356例 (21例)
10. 外科専攻医の経験症例とはならないNCD登録症例	28 (0例)
11. 外科領域 (上記9および10) 合計	2684例 (21例)

⑤ 取り扱っている疾患の特徴

当院はがん専門病院のため、取り扱っている疾患のほとんどは悪性疾患です。特に手術を中心とした治療が中心であり、鏡視下手術から拡大手術まで多くの術式を取り入れております。また、化学療法や化学放射線治療による集学的治療も積極的に施行し、コンバージョン手術も多く手がけております。また、緩和ケア科医師と共に、終末期医療にも力を入れております。がん治療を支える背景となる医療・就労・福祉などに関するさまざまな不安や悩みを解決すべく相談支援センターを設置し、外来通院患者さんを支える努力もしております。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:30	病理・切除標本カンファレンス							
7:45-8:15	朝病棟回診（水曜日は抄読会前、金曜日はカンファ後に回診。土日は9:00～・当番制）							
7:30-7:45	朝チームカンファレンス							
7:45-8:30	手術症例検討会							
7:50-8:30	抄読会							
8:00-8:45	ビデオフォーラム・外科カンファレンス							
9:00-17:00	外来							
9:00-	手術							
16:30-17:00	夕チームカンファレンス+病棟回診							
13:30-16:00	気管支鏡検査（月・水・木は内科主体）							
17:00-18:30	内科外科（放射線科）カンファレンス							
16:00-18:30	内科放射線科（外科）カンファレンス							

5. 【専攻医へ向けてメッセージ】

国立がん研究センター東病院は、世界最高のがん医療の提供、世界レベルの新しいがん医療の創出を行う最高峰の施設です。がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院、特定機能病院等にも指定され、豊富な症例経験、様々な領域を専門とする指導医によるがん診療を含め、高度な技能の習得が可能です。様々な臓器にまたがる疾患を経験することにより、外科専門医としての幅広い知識や技能を習得することと共に、コミュニケーションスキル・トレーニングや、チーム医療、地域医療との連携により、全人的な医療従事者として活躍できるための支援・指導を行います。呼吸器外科専門医はもちろん各種サブスペシャリティの専門医育成にも力を入れています。

2019年の各術式の症例数（鏡視下手術症例数）

食道切除再建術	159例（132例）
胃切除術（噴門側を含む）	197例（178例）
胃全摘術	56例（39例）
結腸悪性腫瘍手術	200例（171例）
直腸悪性腫瘍手術	278例（253例）
肝切除術	164例（108例）
膵頭十二指腸切除術	94例（0例）
乳癌手術	414例（0例）
原発性肺癌	385例（254例） 2019年よりロボット支援手術を開始（月 3～4例）

6. 連絡先

病院名：国立がん研究センター東病院

住所：千葉県柏市柏の葉 6-5-1

TEL：04-7133-1111

担当者：佐々木 千佳

e-mail：csasaki@east.ncc.go.jp /

URL：<https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/index.html>